

(7) 体育科・保健体育科

① 目標の改善

「体育や保健の見方・考え方を働かせる」ことを通して、「体育科、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関係している」ことを実感できるようにし、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力が大切であることを強調した。

② 体育や保健の見方・考え方

	小 学 校	中 学 校
体 育	(見方) 運動やスポーツが楽しさや喜びを味わうことや体力の向上につながっていることに着目すること	(見方) 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力向上の視点から捉えること
	(考え方) 「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適正に応じて運動やスポーツとの多様な関わり方について考えること	(考え方) 自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること
保 健	(見方) 身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当の原則及び、健康で安全な生活についての概念等に着目して捉えること	(見方) 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉えること
	(考え方) 病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持増進と関連付けること	(考え方) 疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること

③ 体育科・保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」

「主体的学び」

運動の楽しさや健康の意義等に気付き、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程

「対話的学び」

運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者(書物等を含む)との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりする学びの過程

「深い学び」

それらの学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程

※ 3つの学びには、順序性、階層性はない。
相互に関連を図り、学びの充実を図ることが重要。

④ 授業改善のポイント（「主体的・対話的で深い学び」の実現）

ア 「主体的な学び」のために

○ 単元の指導計画表を示す

→ 学習の見通しを持たせる（主体的な学びを推進するための必須条件）

○ 導入で、学習の目標（めあて）を明確に示す

「学習カードに記載」、「掲示して全員で一読」、「ペアで伝え合う」等

→ 意識化・共有化を図る手立てが重要

※目標設定：児童生徒の前時の学習状況やつぶやき、学習カードの記述等

→ 解決の必要感を持たせることが「主体的な学び」を引き出す

イ 「対話的な学び」のために

○ 課題解決場面の設定を行う

児童生徒をモデルにより動きを示し、気付きを出しあわせる

→ 課題解決に有効な情報（運動のこつやポイント）を引き出す

共有化された情報・・・児童生徒の話し合いや教え合いに生かされ、対話的な学びが活性化する

○ 課題解決に有効な情報を提供する

有効な課題解決情報の提供

→ 図解やICTの活用（視覚化）等の学習資料（量ではなく質を重視）

※文部科学省資料や熊本県教育委員会が提供する資料の活用

ウ 「深い学び」のために

○ 児童生徒の学びのPDCAサイクルを確立する（学習カードの活用）

「主体的・対話的学び」の連続性を支える学習カード

→ めあて、評価、本時の振り返りの欄が必要

毎時間の記録（学びの履歴）は、児童生徒の学びのPDCAサイクルを確立する有効な手段

※朱書き等で適切なアドバイスを送ることで、より確かなPDCAサイクルに【授業の工夫改善のポイント】(H28熊本県児童生徒の体力・運動能力調査報告書より)

